



大蔵経寺前遺跡 1~5号墳

笛吹市探訪

シリーズ 第21回

山梨百名山「大蔵経寺山」周辺

大森貝塚の発見で知られる明治時代の米国生物学者モースは、日光男体山登山の際訪れた二荒山神社に多くの日本人が参拝している様子を見て感銘を受けたという。

上高地の素晴らしさを世に伝えたウエストンも立山頂上の雄山神社の宗教儀礼を目にして驚嘆したらしい。

山岳信仰は世界各地に点在するが、国土の75%を山地が占める日本では特に盛んである。高山の多くに神社があり、霊山と称する山は全国に350以上あると言われるほど。

石和温泉駅の北西にそそり立つ大蔵経寺山の頂上にも「弥勒平」と称する一画があり、斜面中ほどに山神宮（通称「御天狗」さん）の上社があつて、周辺の住民にとってこの山が大切な信仰の山であつたことが知られる。

大蔵経寺の南前、現在パチンコ店の建つ場所にはかつて直径25mほどの円墳が5基以上造られ、山腹には数多くの石を積み上げた特殊な古墳も20基弱営まれていた。

大蔵経寺の北西奥には「物部神社」が鎮座する。物部氏は、その族百五氏に達すると言われ、蘇我氏と対抗した古代の大氏族であつた。祖神饒速日命ほか十神を祀る延喜式内社で、最初は春日居町の三室山頂上にあつたと伝えられる。なお物部神社は日本各地に多く点在し、県内には南アルプス市十日市場にある。

大蔵経寺山の裾を西に巡ると甲府市和戸町があり、やはり山裾には100基以上の積石塚古墳があり、JR線路に沿っては古代瓦の一大生産地があつた。北東側に巡ると春日居町の山梨岡神社があり、やはり積石塚古墳、土盛古墳が点在する。

山の呼称の由来となつた大蔵経寺は斜面が平地に変わる地点にある。山容が丸く寝そべつた獅子に似るところからかつて山号を青獅子山と言つた。国指定重要文化財「絹本著色仏涅槃図」ほか、真言密教関係の軸物多数を有している。